



国労近畿

第232号
発行 山本 泰光
編集 木下 賢一
大阪市北区錦町2-2
TEL06-6354-0700
FAX06-6358-1465

労働条件改善と組織の拡大へ

2月10日、地本は第20回拡大地方委員会を国労大阪会館で開催しました。2024年春闘の闘いを中心として、安全・安心輸送と

職場の民主化、労働条件の改善、組織の強化・拡大、政治課題、国民生活と平和・民主主義を守る闘い等、闘う方針を確立しました。

議長に厚田委員（大阪）を選出し、11名中9名の委員の出席で成立。山本委員長のあいさつ（別掲）に続いて、来賓として西日本本部植田委員長より激励のあいさつを受けました。

山口委員（大阪） JR会社に見切りをつけて退職する労働者が出ています。西労組に対する不満、矛盾が拡大する中で国労運動が前進する条件は広がっている。関わらなければ国労運動の発展はない。3・14春闘行動日は、近畿統括本部前での集会を取り組んでいただきたい。乗務員職場での点呼アプリ

の問題は、二重点呼であり超勤を支払うことは当然である。職場の安全問題です。9年目を迎える鳴野駅のホームの安全を守る闘いは、利用者の声9200筆以上を集約した。大阪支社がない現状の中、ホーム要員の配置と抜本的な安全対策、安全輸送の確立に向けて近畿地本が闘いの先頭に立ち、交渉することを要請する。

石山委員（大阪） ダイヤ改正について。列車本数が変わることなく車掌だけが減らされて、行路がきつくなる予感がされる。乗

大幅賃上げで景気と生活の改善を

第20回拡大地方委員会



一月一日、能登半島地震が発生し、大きな被害が出ている。心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。第一避難所と言われているところに約8000人が避難している。十分な予算編成もなく職員の配置も少なく、弱者にしろよせが来ている。

ローカル線の問題などの発言があり、集約で要求額の決定については物価上昇と生活改善、アンケート調査の結果を踏まえて決定した。職場からの運動基礎に闘って行くということであった。ローカル線については西日本会社が再構築協議会の設置を申請したが、附帯決議や国交省要請の中でも再構築協議会に地域住民や労働組合も入ることができるとされているので活用したい。ストライキについて

生きと仕事をしていけるようにするために、私たち国鉄採用の組合員の役割は重要である。昨年亡くなられた宮里先生は組織拡大について、①国労の政策要求に優位性はあるのか。他の労働者の琴線に触れるアピールを持っているのか。②それを実現できる運動継続的に出来るか。日常的に繰り返し繰り返し粘り強くやっていく取り組みが大切である。③組合の枠を超えた人間的な交流、人間関係がないと政策が正しくても組織拡大をすることはなかなか出来ない。最後に団結。団結のないところに闘いの発展はないゆえに団結なくして勝利も勝ち取れないと言われている。私たちは職場を基礎にもう一度原点に帰った運動を構築しなければならぬ。JRの利益優先安全無視の経営は、関連労働者の死傷事故を発生させ、全体で一四一名の大合理化、工場の完全委託化など安全とサービスをないがしろにし労働強化を一層進めようとしている。地方ローカル線の問題では芸備線の一部区間を対象に再構築協議会の設置が

要請され、3月26日に第一回目の協議がある。鉄道と公共交通を共存させ地域の生活を支えるために、いかに鉄道を残すか議論と運動をしなければならぬ。昨年からインフルエンザの大流行とコロナ感染も増えだし、コロナは第10波という状況であり、会社の負担で検査を受けられる、感染しても100%の賃金補償があり心置きなく休むことができるなどJRで働くすべての人の安全を守るために、2024年春闘は労働条件の改善、大幅賃上げを獲得するためにストライキを背景に徹底的に闘うことが求められている。裏金問題で窮地に立たされる岸田政権は起死回生策として、改憲策動と総選挙を結びつけようとする動きを見せている。自民党の政治を大転換させるために、野党共闘が絶対必要である。日本の明るい未来と平和のために、大阪で維新政治を退陣に追い込むために全力を上げなければならない。近畿地方本部はさまざまな運動の先頭に立つことを申し上げ近畿地方本部執行部を代表しての挨拶とす

総団結 総行動

山本 委員長あいさつ (要旨)

は目的ではない、決定については中央執行委員会が判断するとしている。西日本会社は増収増益で、通期の黒字予想を大幅に上方修正している。貨物は赤字であるとの見通しを出している。コロナ禍で安全輸送のために精一杯働いている社員の労苦に報いるために内部留保利益剰余金を還元させること、将来に渡り生き生きと働き続けられる会社にして、若い世代が生き

2024年春闘について、全産業で資本金10億円以上の企業では内部留保は527兆7000億円となっている。内部留保を活用した労働者全体の賃上げにまわすべきである。国労は第一九四回拡大中央委員会において定期昇給の完全実施と6・2%、1万7千円の統一要求を決定した。中央委員会では要求額の根拠、アンケートでの生要求との整合性、ストライキについて、組織の強化・拡大、地方

は目的ではない、決定については中央執行委員会が判断するとしている。西日本会社は増収増益で、通期の黒字予想を大幅に上方修正している。貨物は赤字であるとの見通しを出している。コロナ禍で安全輸送のために精一杯働いている社員の労苦に報いるために内部留保利益剰余金を還元させること、将来に渡り生き生きと働き続けられる会社にして、若い世代が生き

は目的ではない、決定については中央執行委員会が判断するとしている。西日本会社は増収増益で、通期の黒字予想を大幅に上方修正している。貨物は赤字であるとの見通しを出している。コロナ禍で安全輸送のために精一杯働いている社員の労苦に報いるために内部留保利益剰余金を還元させること、将来に渡り生き生きと働き続けられる会社にして、若い世代が生き

は目的ではない、決定については中央執行委員会が判断するとしている。西日本会社は増収増益で、通期の黒字予想を大幅に上方修正している。貨物は赤字であるとの見通しを出している。コロナ禍で安全輸送のために精一杯働いている社員の労苦に報いるために内部留保利益剰余金を還元させること、将来に渡り生き生きと働き続けられる会社にして、若い世代が生き

務点呼まで5分減になり、タダ働きを懲罰しているようなものだ。毎回ダイヤ改正で行路の提示が遅い。全組合に年末には提示するように要求する。

安全問題。地震津波の訓練では、津波は地震が発生してから一時間後に到達すると教えられてきたが、今回の地震ではすぐに津波がきている。

特急列車の車掌複数乗務、異常時対応に即した駅係員の配置、無人駅・改札の無人時間帯をなくす取り組みを強化することが急務である。鳴野駅での終日ホーム要員配置の取り組みは、再度違った角度で会社を交渉テーブルに着かすことが重要だと考える。

2024年春闘の闘い。ストライキで闘う強い決意で闘わなければ要求は前進しない。近畿統括本部前での抗議集会開催を望む。

◎島本委員（兵庫）

兵庫地域分会は全体で68名シニア53名、5班中一つの班は6名すべてシニア社員という班もある。組織拡大は全力をあげて取り組んでいる。昨年加入した貨物の仲間が職場の青年に話をし、もう一歩で加入にこぎつけるところまできている。

旅客の職場でも貨物も頑張っているんだからと、青年を連れて来るように取り組みを強化している。

退職者組合の方から交流会をしたいと誘いを受けている。点呼アプリが問題になって

いる。乗務点呼までに時間が足りないの、サービス労働になっていく。

安全の問題で、姫路駅でホーム柵がないのにホーム要員が削られている。安全問題は会社のアレックス腱であり、しっかりと追及していかねばならない。

春闘時に3回宣伝行動を行っている。2月17日には兵庫文化センターで春闘決起集会を開催する。3月14日の総行動には青年も呼んで、神戸駅と元町駅で宣伝行動を行って本社集会に参加する。

◎恵阪委員（大阪）

貨物会社は2023年度中間決算で単体で▲21億円連結で▲10億円だった。このことが理由で年末手当1・63か月と回答してきた。過去黒字であった年も1・6か月代だった。いろんな理由を付け低額回答をしている。長期ビジョン2030において設備投資の半分は成長戦略分野への投資で、社員への投資を絞りながら設備投資だけ計画通り行う社員軽視の姿勢を見せている。

貨物は春闘で署名を取り組んでいる。昨年も1091筆提出して国労要求が社員の要求として示した。今春闘もさらに要求を前進させるためストライキを構えて闘うよう本部に要請をお願いする。主な施策で駅職場で日曜ダイヤの導入、退勤時刻の変更、吹田機関区でフオークリフトのタ

イヤ交換業務の直営化というものがある。要員削減にならないように交渉で確認して行きたい。一昨年、西日本ロジックで青年がひとり加入した。青年の加入で要求が鮮明になり、西日本ロジックの団体交渉が行われている。関連会社においても組織力の強化が求められている。

貨物で2019年より人事評価制度が導入されている。評価によって賃金を決定する制度で労働組合への加入も薄れてきている実感がある。組合員不在の神戸タと姫貨で拡大があった。近畿貨物が行っているオルグによるものが大きい。旅客会社でも実践をお願いしたい。すべての運動を組織拡大と重ねて取り組み国労内部だけの運動とせず

質問要望をいただきたい。春闘統一行動で近統前での集会をというのだが、昨年の定期大会でも同様の意見を頂いている。実際問題として今の時点で実現するのは難しい。昨年12月の全機関者会議から春闘について取り組みを議論してきたが、各地区本部・地域分会との意思統一ができていないのが現状である。気持ちとしては受け取っている。執行部として実現できるような方向で、時期も内容も含めて検討して行きたい。3月14日については厳しいと考えている。鳴野の問題でバ

他労組に対しても働き掛けをしていかなければならない。

◎山中委員（京滋）

クレペリンの再検査について。昨年の10月から12月にかけて特別臨時検査が実施された。私も受験をし合格となった。以前、会社はクレペリン検査で不合格となった方の落ちた能力の回復はないと言っていたが、受験した人数の30%の合格者が出ている。特別臨時検査は一回限りとなっているが、一定期間開けることにより能力が回復しているという実績もある。さらなる制度の改正、受験するにあたって行われた意思確認の撤回、再確認の実施を求めたい。改善を求める運動を国労がやっているということの実績が上

がれば、組織拡大に大きく繋がると思う。合格者の復帰についても早期の復帰に向けて、取り組みを強めてもらいたい。

◎本多委員（兵庫）

JR、テクノスともに人が足りないという声は充滿している。人が足りない中でも、新潟の三セクのディーゼルの新潟、山陽電鉄のリニューアルの工事を取っている。年始の点呼でも体質改善工事の再開、展示する車両の整備などもやっていく。超勤もお願いしませんが、台車検査についてはJRからテクノスに2〜3年はJRのやり方を踏襲してくれと言われていることだ。逆に言う2〜3年経てばテクノスのやり方でやってもらって結構だ

◎松崎委員（大阪）

ダイヤ改正で私の職場でも6名の減で列車本数はほとんど変わらない。労働強化になり絶対反対である。春闘について、物価上昇に對抗するには大幅賃上げしかない。社員とシニア社員の労働条件統一に向けて、分会も頑張るので近畿地本も頑張ってもらいたい。3・14の統一行動は、全員参加を目指していきたい。近畿統括本部前での抗議集会を取り組んでいきたい。

書記長集約

(要旨)

リアフリー料金等でハード対策をということと今までと違った角度での交渉をと、意見をいただいている。鳴野の問題については一回近畿等でも交渉を行っている。その後の問題についてしっかりと大阪地区本部、関係分会との

安全問題

ダイヤ改正等の提案の中で労働強化、合理化、効率化また外注、委託化等の施策の提案がされている。残念な

政治課題

現場の仲間の声も踏まえて政治革新、総選挙勝利に向けて、市民連合と野党共闘の強化を行って行きたい。

意思統一を踏まえて相談をしていきたい。

組織問題

それぞれ現場での奮闘を報告いただいた。貨物での実践行動をぜひ旅客でもという声もあった。確かに旅客で

春闘

それぞれの委員からストライキで闘おうと意見を聞いた。西日本本部の答弁でもあるように、中央戦術委員会等での奮闘をお願いしながら、近畿としても

から多くの施策が会社かと思うように進められようとしている。台車検査の外注化の話もあつた。テクノスのやり方というの、私も吹田の車両所にいるので目の当たりしている。外注先委託先の労働条

それぞれは受け止めるが、何のために労働組合はあるのか、何のために要求しているのか。それぞれの立場や役割は違いますが、ともに運動を進めていきたい。